

特67

239

元帝室乐师

大村也三郎先生校阅

琴曲小集

高松栴窓编

302

173

緒言

音楽の趣味は曲其の性質を解さなければ味ふ事が出来ません鳥の歌ふ聲虫の唧く音など皆天然の音楽で是を聞いて悦ぶは天性の事其趣味も自然其趣味も異りて参ります音楽も又其通りで僅に耳を悦ばすだけでは甲斐がありません勇ましの曲を弾いては洗心も洋曲にせ悲しい曲を奏でれば勇者も泣き身も聞く人も殆んどわか身を忘れる程にならば音楽の妙所に達したものは云へません近來流行のヴワキオリンも本とうの妙所を發揮するのは洋曲にある事云ふ迄も御座いませんが併し日本には一層の趣味も洋曲では文句も分らず意味も通せず十分に趣味を解する事が出来ませんゆへ學ぶ方も中途に廢し聞く人もわけが分らないと云ふ所より折角の名曲も十分の感動を與へる事が出来ませんそこで洋曲を教へらるる方々にしても最初は家庭の音楽に適應する様矢張日本曲より始め漸次音楽の趣味の向上と共に洋曲をも雜へ教ゆると云ふ方針を取られ其功績は段々あらはれて居りますのは斯界の爲め誠に悦ばしい事です元來音楽は感化的教育補助具ですから感應と云ふ事が大切であらうと思ますそれには英語を解せぬものが洋曲を聞きましても肝腎の意味が分りませんから折角の名曲も只美しい音色とのみ聞こえてその他は何の感應もありませんが同じ洋曲でも始めに説明を伺てから聞くと臆るけながらも意味が取れて面白く聞かれます要するに奏する方も聞く方も其心して弾し其心して聞いてこそ始めて音楽の趣味も深くなるのです音楽は何に限らずそれ／＼特色の趣味のあるもので調べれば調べる程奥深く趣味も湧出で底のないものだと申す處が中には洋曲がよいとか日本曲がよいとかあるいと判断を下す方もありますがかゝる奥深き事をせまらざる観察により善悪の斷案を下すのは餘り輕卒ではありますまいか仮へば公會の席には音色廣大なる洋樂よろしく又家庭には日本音樂捨難く又箏の方にも生田流は技巧を極めたる高尚の名曲多く山田流は歌節の流麗なる生田流の名手を抜き變化多き三味の手を配合せるなど野卑に流れず高尚に失せず中庸を得たるものと云ふべく總てそれ／＼特色ありて一つとして捨つべきものはありません要するに洋樂の發達と共に日本音樂も共に後れぬ様益々改良發達を計り十分其功績のあらはれん事を私共は切に祈るのであります

編者識



ヴァイオリン 曲 共通譜に就て

ヴァイオリンは調子一定のもの故動かす事出来ずとて箏より音を合せ到底唱い得ぬ迄の高調子となし又は音の配合取れ難き迄の低音になしたり或は譜をその都度詳し直す等の事は誠に不便と存じます元來ヴァイオリンで日本曲を奏すと云ふのは譜は、方使上當はめるに過ぎないのでからヴァイオリンの方から日本楽器に適合した方音調の上から云ふても當然ではありませうか現に文部省編輯の箏曲集中の譜をヴァイオリン譜に改むるに當り箏曲集のシの音より一音下げて(ラ)の音に取る方日本音楽と音色上の適合よろしとは斯道先輩方の唱へられ又實行せられつゝあるところですからそれで今回の共通譜も箏に用ゆる譜ですから矢張箏にて弾き易きもヴァイオリンには何れ無理の處はありませう元より和洋楽器は各形音を異にして居りますから全く同一の譜を用ゆると云ふ事は無理の事です以上の理由で音を共通にするようにして有ますからヴァイオリンには最初の中少々困難でも少し馴れて箏の特色記號さへ呑込めば箏の奏法を知る事も出来能くあてはめて特殊の音色を出す事が出来ませう仮へば曲中に(ミ)の音に箏の特色の(連)の記號ある時は箏では(ミミミ)と少し響かす所と知る事が出来ヴァイオリン弓を軽くふるはせて弾じ又押手の時は同じ(ミ)でもヴァイオリンで成べく開絃を用ひず小指に押し弾くとかいろく彼是氣合ひを解する事が出来合奏上一段の趣味を添ゆる事と信じますまた新案共通譜は一には洋樂の素養ある樂譜に見慣れし方の爲めに拵るたのですが元來は箏の譜で箏に見易きを主眼とし各絃の位置を不變のものとし音律の高下は符號に依りて表示する事に定めてありますから從て時には一音の高下をなす場合もありません(仮へば横線上(ソ)の音に一音あがる記號符(ラ)の音に變する如き)又押手の時其記號を符し譜の位置換る事なき様致有ます是れ其都度位置を動かす時は曲毎に其絃の暗記を要するのを恐れていあります其心してお用な給はん事を

	掩	押	拍爪	半	拘	早拘	搔手	右爪
		亞強	爪 拘	半 向	半 短			
左								
午	推	膈	散	排爪	押合爪	引連	連	半引連
法	重押	揺吟	波歸	引控	輪連	流爪	刺爪	摺爪
八	添	押放	拾七法及雜記符					
			高音記号	反音記号	延聲記号	緩急記号	掌記号	後押

奏法及常用等記号 = 於ケル半法ハ等曲道末る座ニ等ナリ
 本書ノ不審ハ能ク大阪市北区本橋町等曲高風會ニ照合アルベシ
 音ノ高低ヲ表示スルニハ下ノ記号ヲ用ユ

ハ高音記号
 ハ中音記号
 ハ低音記号

調子ノ高下ヲ表示スルニハ下ノ記号ヲ用ユ

ハ半音上ゲ一音ナリニ用ユ
 ハ半音下ゲ一音ナリニ用ユ

聲ハDノ符アリ或ハ半音ナリハ等曲ニ於ケル中ノ符ト用シテ示ス符ヲ
 彈奏スルベシナリ

例 ハ ナルガ如シ

押手等音ノ高低ヲ示スルニハ下ノ記号ヲ用ユ一音ナリニ用ユ一音ナリニ用ユ一音ナリニ用ユ

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

清き琉球

ききき 友か れの いさ らか

たか と 花を しき けいご き おほたる

と お 友 り いぎや おさかごと りて あそび

もも 花がらまどの いかりに ふみ をみよ

歌の道

うたを ぶく 友も かわいも うたふ

うたの みち つき けい

たかの をりせ りに おも たら

にうた — い — たの — し — 光

六段前歌

つ — と — て — も — 花 — に — ねぬ

よ — え — あき — もの — を — いか — に — つ — ち

き — さき — けし — は — と — と —

き — 光

い — く — よ — かき — ね — て — ま — の — ね — づ — と — に — せめ

て — あ — ぐ — さ — む — こ — と — の — は

て — さ — へ — ゆ — く — つ — き — の —

かー けー

山田流七帖

あき の の に さき た 3

まなは おと な に せ の か ゆび せり

かき ぶ め 1 き せ 2 せ ぶ はき

かー はー なー を はー お
く きー ばー おー せき

ふー らー しー たかー ぬぎー かー けー しー ふじー

以下係子

はー かー まー さやー のー おさけー

のー ふてー しー ぶー に 7 ゆー のー いのちー のー あせー がー 18

のー は ぶ

First system of musical notation on the left page, consisting of two staves with notes and rests.

Second system of musical notation on the left page, consisting of two staves with notes and rests.

Third system of musical notation on the left page, consisting of two staves with notes and rests.

Fourth system of musical notation on the left page, consisting of two staves with notes and rests. The lyrics "はのなふ" are written above the top staff.

Fifth system of musical notation on the left page, consisting of two staves with notes and rests. The lyrics "しむおかし" and "の人のめぐり" are written above the top staff.

First system of musical notation on the right page, consisting of two staves with notes and rests. The lyrics "秋の花の" are written above the top staff.

Second system of musical notation on the right page, consisting of two staves with notes and rests. The lyrics "そのは いまにたかまどや のべに" are written above the top staff.

Third system of musical notation on the right page, consisting of two staves with notes and rests. The lyrics "秋の" are written above the top staff. A double bar line is present at the end of the system.

雪

Fourth system of musical notation on the right page, consisting of two staves with notes and rests. The lyrics "おかし" and "の人のめぐり" are written above the top staff.

と か ほん に むか し

むか し の おと こ にか まつ ひと

は われを まち け ん

えい の せい に ぶくろい の

こほ る ふすま に ぶくろい ね ぶ さき

か き おき た に こ こ ろ も けい

は の か ね

First system of musical notation on the left page, consisting of a treble staff and a bass staff. The melody is written in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff. The music is in a common time signature.

Second system of musical notation on the left page, including a treble and bass staff. The lyrics are: おのる かみ だ の つら ら よ. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Third system of musical notation on the left page, including a treble and bass staff. The lyrics are: ひ と り ね の ま る に ひ と. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Fourth system of musical notation on the left page, including a treble and bass staff. The lyrics are: あ ら き の おと む も. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Fifth system of musical notation on the left page, including a treble and bass staff. The lyrics are: い と き かね. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

First system of musical notation on the right page, including a treble and bass staff. The lyrics are: おのる かみ だ の つら ら よ. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Second system of musical notation on the right page, including a treble and bass staff. The lyrics are: つら いのち を い か ら ぬ と. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Third system of musical notation on the right page, including a treble and bass staff. The lyrics are: おと ひと の. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Fourth system of musical notation on the right page, including a treble and bass staff. The lyrics are: ふ か く か も ん. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Fifth system of musical notation on the right page, including a treble and bass staff. The lyrics are: の か い に た ぎ. The melody continues in the treble staff, and the accompaniment is in the bass staff.

Handwritten musical notation for the first system. The top staff is a vocal line with lyrics in Japanese: "の け 夫 じ き くの や". The bottom staff is a piano accompaniment. The music is written in a single system with a repeat sign at the beginning.

Handwritten musical notation for the second system. The top staff is a vocal line with lyrics in Japanese: "あ か づ ら". The bottom staff is a piano accompaniment. The music is written in a single system with a repeat sign at the beginning.

老幼にかゝはらず樂譜見た事のなき方でも
見易く覺えらるゝ等専用の譜本です

箏曲道しるべ

定價金六拾五錢

曲目は生田流つるの聲、瀧づくし、
袖の聲、六段、千鳥の曲 外に唱歌二三曲

校閱

元帝室樂師
大村恕三郎先生
東京女子大學等曲教授

序文

佐藤左久先生
菊地幽芳先生
高松梅窓編纂

山田流 那

須野

等専用の見易き譜と
洋樂と共通なる等の譜
兩様記載の美本

山田流

生田流

生田流

松竹

風櫻

琴専用の見易き譜と洋
樂と共通なる等の譜
兩様記載の美本

近刊

遠近國にかゝはらず箏

曲改良せんご志す專

門家及教員貴夫人

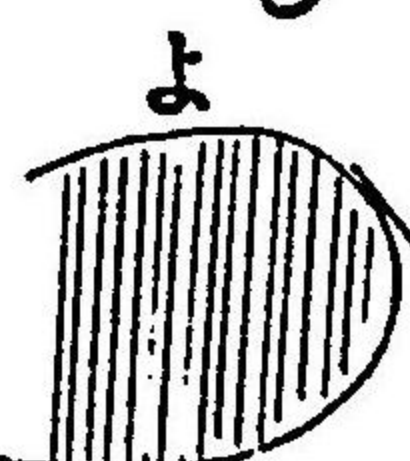
令嬢方御來談

あれ便宜御

相談申

上ま

しよ



不許複製

明治三十九年十二月廿三日印刷
明治四拾年十二月廿六日發行

(定價金六拾五錢)

校閱

大村 恕三郎

編輯者

高松 竹

發行所

大坂市北區木幡町四百五番地

印刷者

大坂市東區常盤町二丁目廿七番地

印刷所

大坂市東區常盤町二丁目廿七番地

發賣所

大坂市東區南久寶寺町四丁目

發賣所

前川 樂器店

發賣所

東京下谷區桂土町三丁目四十九番地

發賣所

京都三條寺町

發賣所

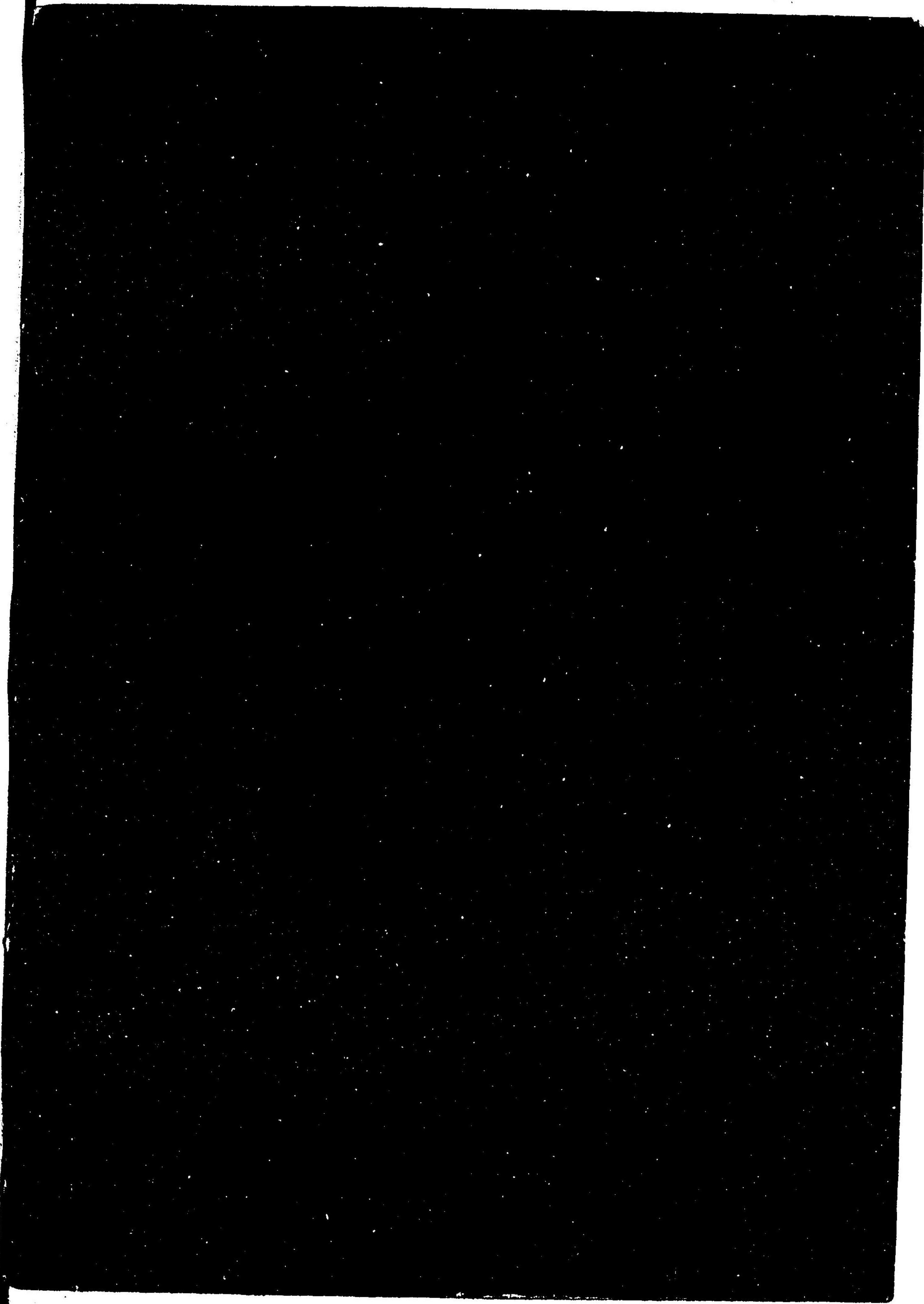
十字 屋樂器店

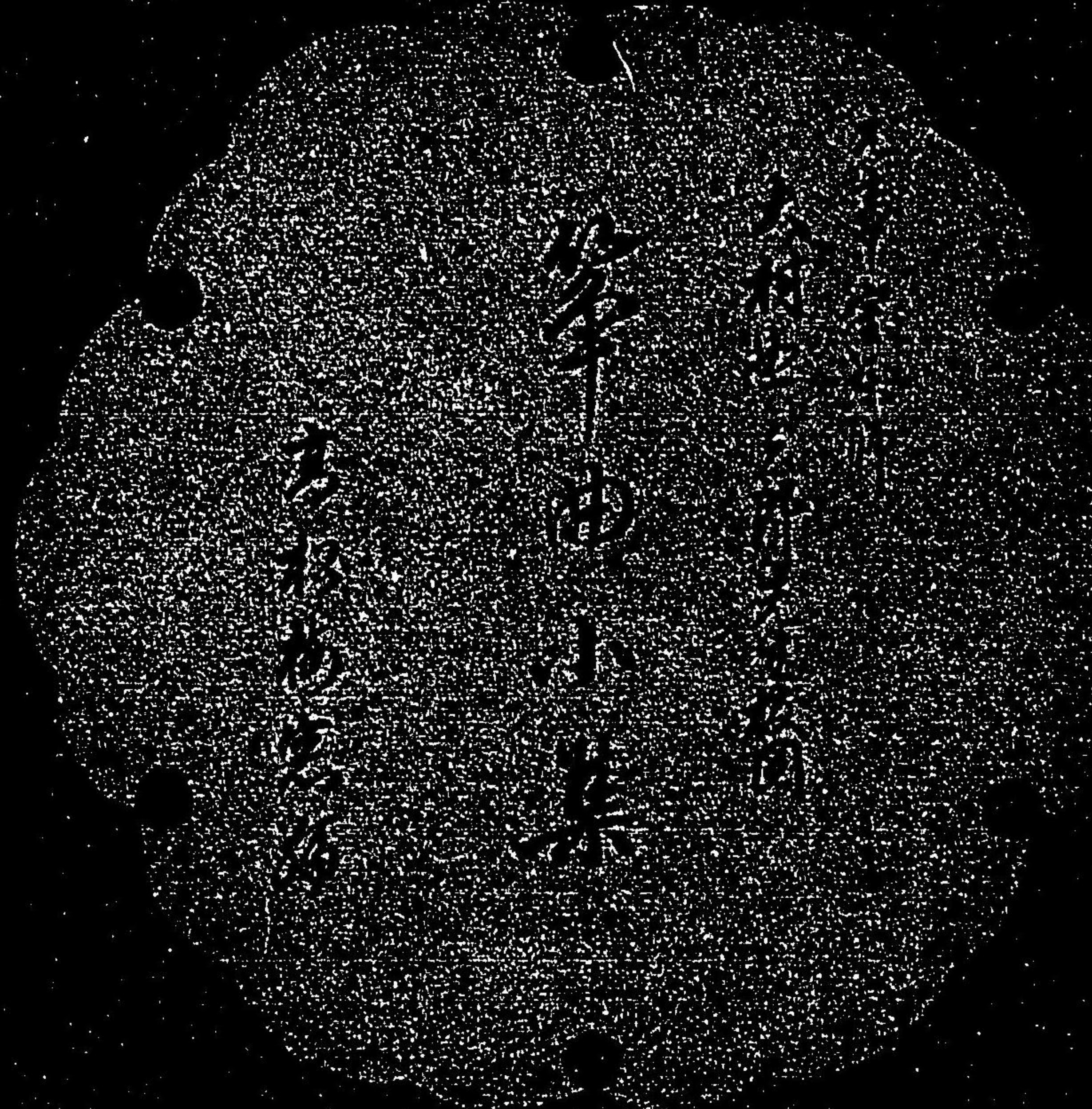
發賣所

岡山市西區寺町四拾番地

發賣所

武内 教育書房





074508-000-2

特67-239

箏曲小集

高松 竹子/編

M40

CEI-1835

